

# 越後平野生態系ネットワーク行動計画(2030)の骨子 (案)

## 目 次 構 成

- 1 行動計画の目的と位置づけ
  
- 2 計画の対象・主体
  - 2-1. 対象地域
  - 2-2. 指標種
  - 2-3. 計画期間
  - 2-4. 推進体制
  
- 3 基本方針(行動計画)・取組体系
  - 3-1. 基本方針
  - 3-2. 取組みの体系
  
- 4 保全・再生の優先度マップ
  
- 5 各項目における取組目標・取組
  
- 6 進行管理

## 1 行動計画の目的と位置づけ



## 2-2. 指標種

### ・ ガン類

- ・ヒシクイ※とマガンは国の天然記念物。越後平野の福島潟はヒシクイの亜種であるオオヒシクイの日本有数の越冬地となっており、オオヒシクイをモチーフとしたマスコットキャラクターが制作されている。
- ・竿(さお)になり、鉤(かぎ)になりと飛ぶ姿は遠い昔から歌に詠まれ、日本人に親しまれてきた生き物である。
- ・越後平野に多く飛来するヒシクイ、マガン等のうち、最も飛来数が多いのは亜種オオヒシクイである  
※オオヒシクイはヒシクイに含まれる。



### ・ ハクチョウ類

- ・越後平野は国内最大規模の越冬地となっている。
- ・新潟市・阿賀野市の「市の鳥」であり、「ビッグスワンスタジアム」や「アルビレックス新潟」など、ハクチョウに由来する名称が数多く存在し、地域住民に愛される生き物である。
- ・越後平野に多く飛来するコハクチョウ・オオハクチョウのうち、最も飛来数が多いのはコハクチョウである。



### ・ トキ

- ・国の特別天然記念物。日本国内における自然保護を象徴する種のひとつ。
- ・新潟県の「県の鳥」、および、同県佐渡市の「市の鳥」であり、佐渡島を拠点に継続的な保護活動が行われている生き物である。
- ・現時点では、越後平野には定着していないが、佐渡島 から飛来する個体が不定期に確認されている。



### 2-3. 計画期間

到達目標年度である 2050 年を見据えたものとしませんが、本計画の目標年度としては 2025 年度(全体構想の短期目標年度)、2030 年度(全体構想の中期目標年度)を想定し、2030 年度に計画の進捗状況を確認の上、次期計画の策定を行うものとしします。

### 2-4. 推進体制

生態系ネットワークの推進体制は協議会、部会の他、関係主体として、行政機関、学識者、各種団体、企業、学校、市民団体、地域住民、農業者などを想定している。

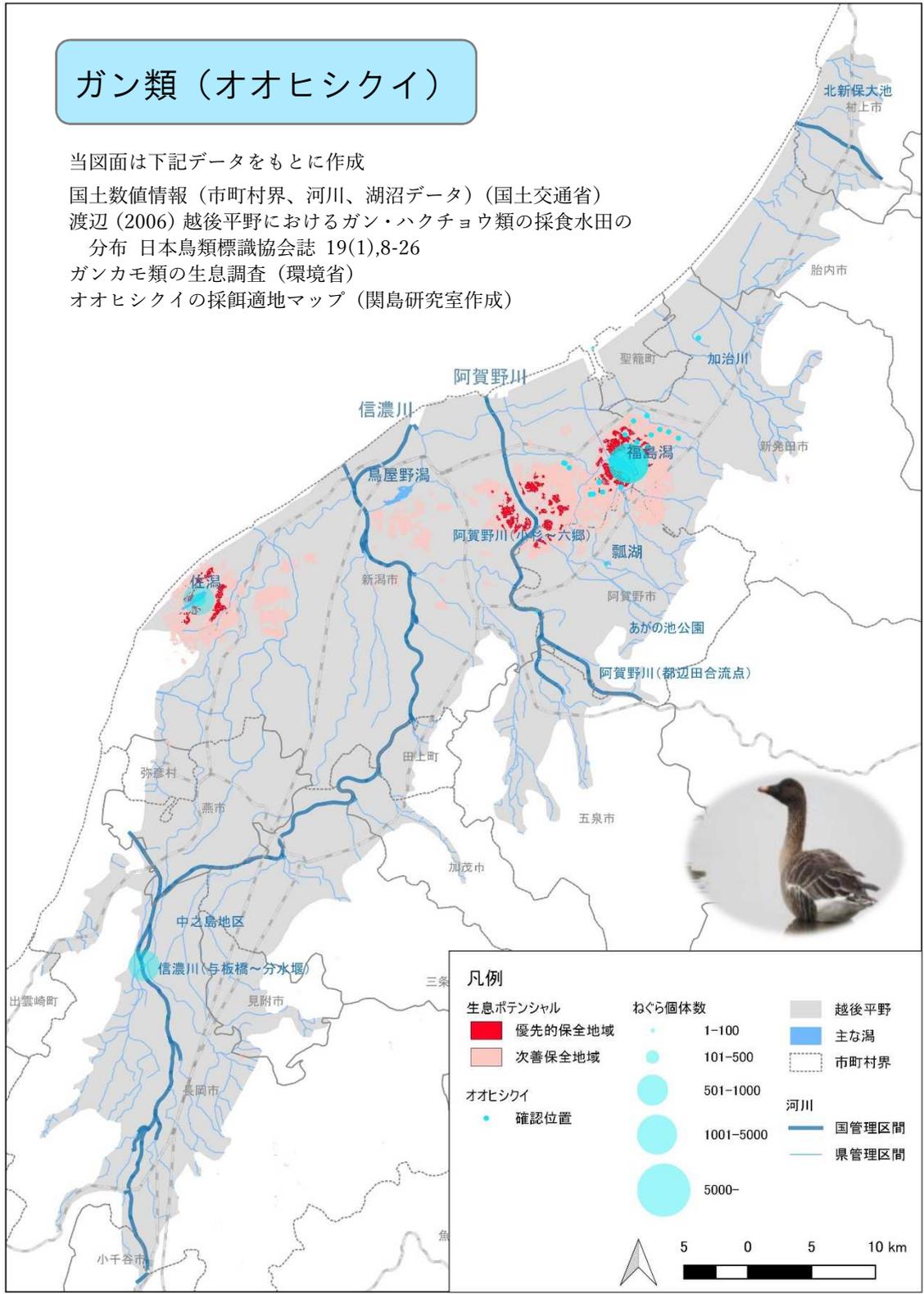
### 3 基本方針(行動計画)・取組体系

#### 3-1. 基本方針

#### 3-2. 取組みの体系

#### 4 保全・再生の優先度マップ

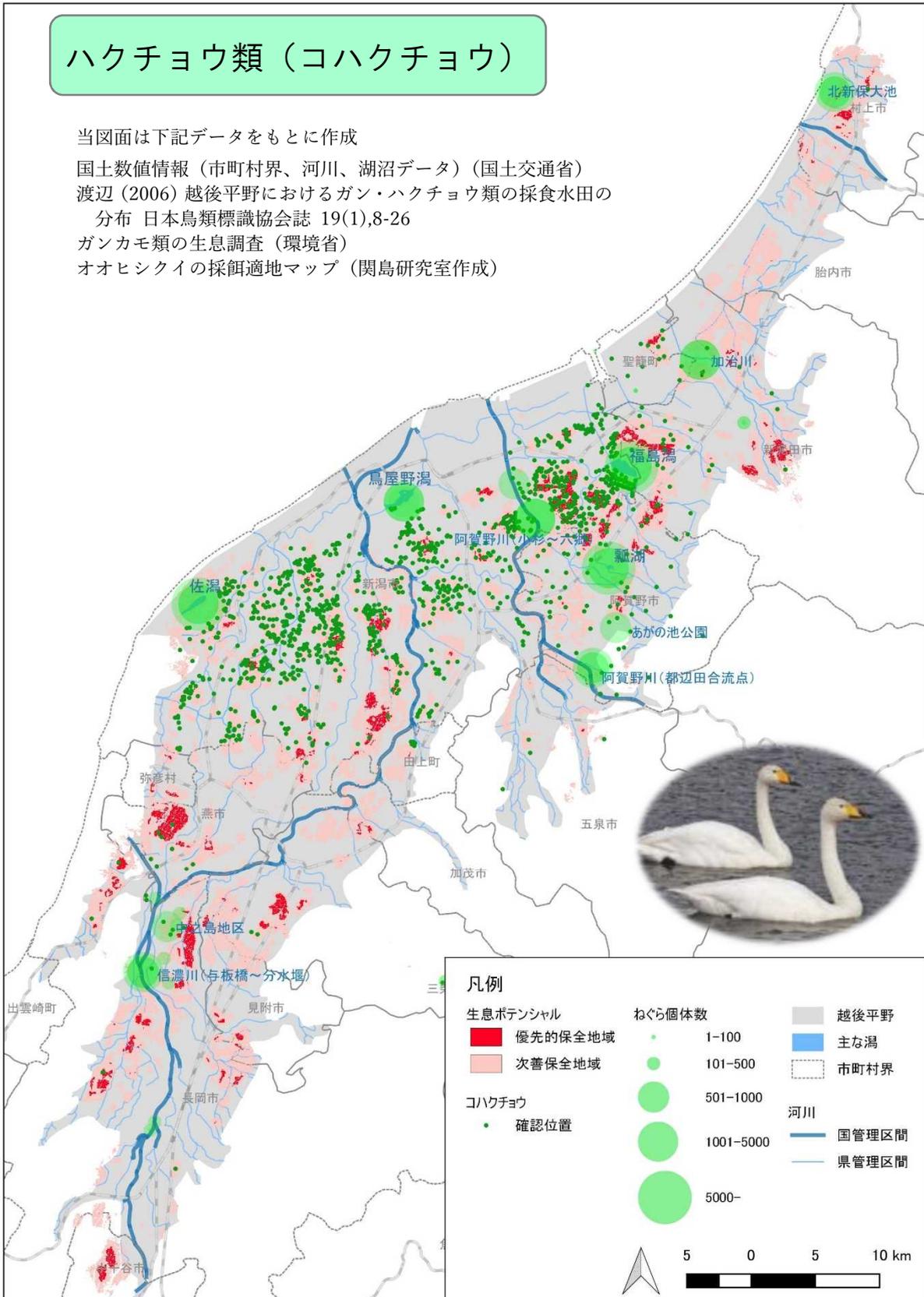
これまでの調査記録や自然環境か等などから指標種の生息ポテンシャルマップを作成し、生息環境（ねぐら・採餌場）の保全・創出を図る候補地の選定に参考になるものである。



# ハクチョウ類（コハクチョウ）

当図面は下記データをもとに作成

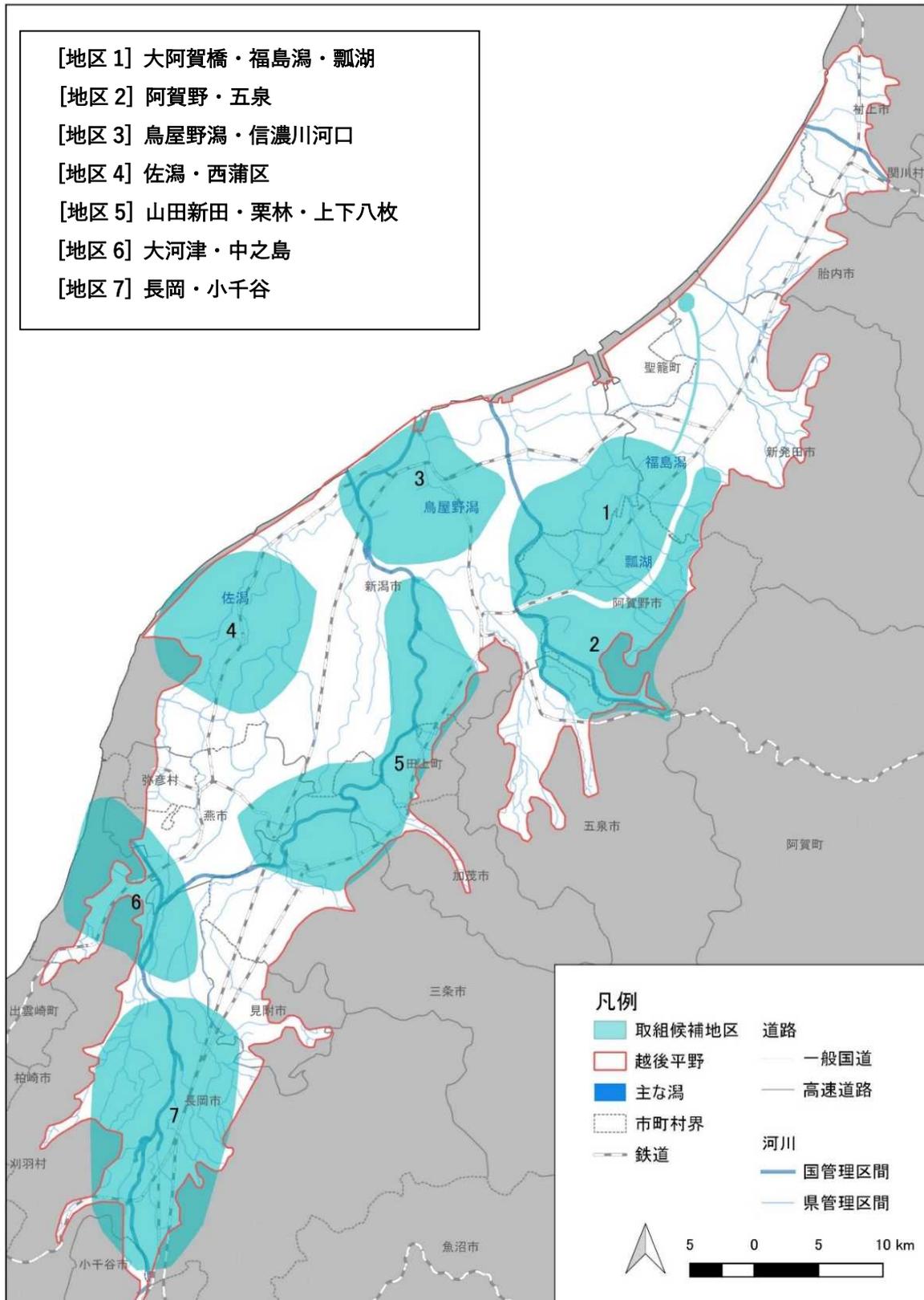
- 国土数値情報（市町村界、河川、湖沼データ）（国土交通省）
- 渡辺（2006）越後平野におけるガン・ハクチョウ類の採食水田の分布 日本鳥類標識協会誌 19(1),8-26
- ガンカモ類の生息調査（環境省）
- オオヒシクイの採餌適地マップ（関島研究室作成）



## トキの生息ポテンシャルマップ

- ・資料では公開用マップを掲載。
- ・協議会及び部会では、別紙で非公表用を提示のみ。

指標種の生息ポテンシャルマップから、主な取組地区（イメージ図）を設定しました。

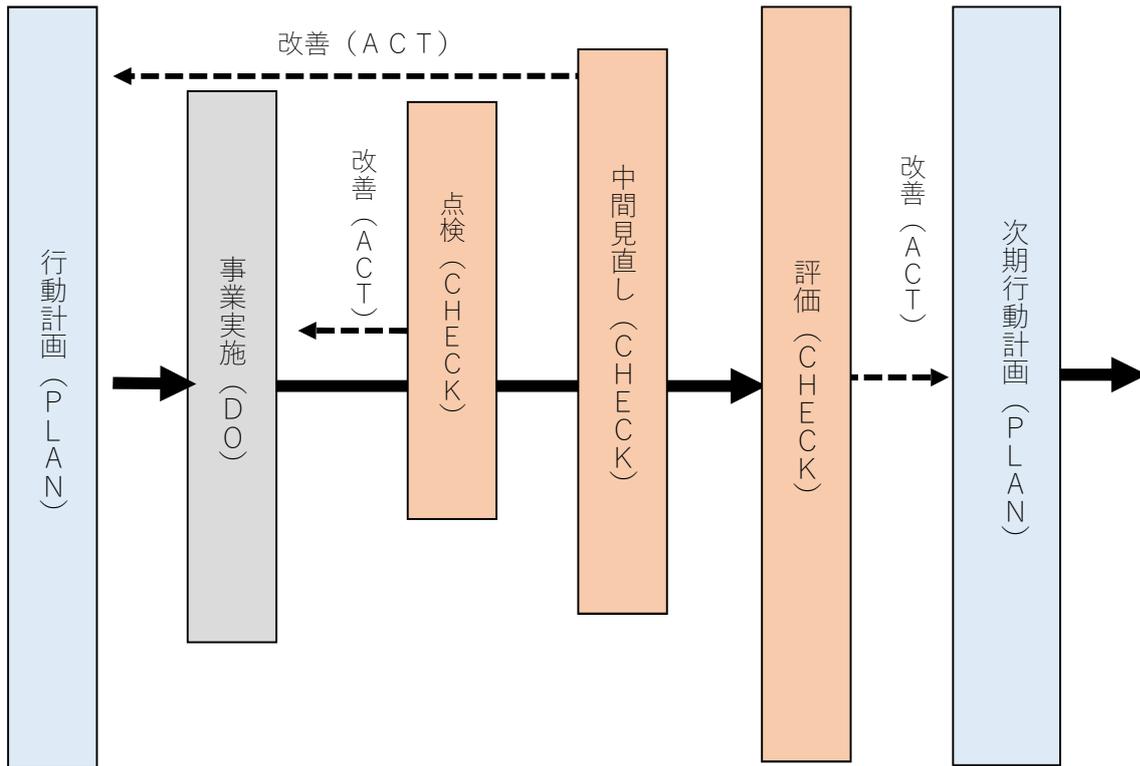


ガン類、ハクチョウ類、トキの取組地域を分かりやすく表示する予定。

## 5 各項目における取組目標・取組

## 6 進行管理

毎年、進捗状況を確認し、必要に応じて事業等の実施内容に反映させるとともに、2025 年度には中間見直し、2030 年度（計画最終年度）には総合的な評価を行い、次期計画に向けた見直しを行います。



図表 6-1 進行管理のイメージ